

# (ほ乳類)

富士山は大きな標高差を持ち、様々なタイプの自然環境を有するために、哺乳動物の宝庫とも言われており、今までに42種の哺乳類が確認されています。富士山特有の種はわずかですが、生息密度の高さ（個体数の多さ）は日本有数と言われています。



ニホンカモシカ

## 大型哺乳類

富士山に生息する大型哺乳類としては、ニホンカモシカ、ニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンイノシシなどが知られています。このうち、国指定特別天然記念物のニホンカモシカは亜高山帯を中心に生息しています。また、ツキノワグマの生息密度は高く、青木ヶ原樹海から山地帯にかけて広く生息しています。ニホンジカは近年、個体数が急増しており、昼間でも姿を目にすることが多くなりました。



キツネ

テン

## 中型哺乳類

富士山にはキツネ、テン、タヌキ、イタチなどの陸上生態系の食物連鎖の頂点に位置する中型肉食哺乳類が高密度で生息しています。特にテンは周辺地域に比べ個体数が多く、富士山を代表する哺乳類の一種と言えるでしょう。



ヤマネ

ニホンリス

## 小型哺乳類

富士山には天然記念物のヤマネやニホンリスなどの小型哺乳類が山地帯の森林周辺に多く住んでおり、後者はそのすばしこくて愛らしい姿を良く見かけることができます。富士山の青木ヶ原、剣丸尾、鷹丸尾などの溶岩流上には原生林が発達しており、そこはヒメネズミ、アカネズミ、スミスネズミなど森林性ネズミ類の格好の生息場所になっています。これらのネズミ類は猛禽類フクロウの主要な餌であり、溶岩流上の原生林にネズミ類が豊富に生息していることが、富士山麓に数多くのフクロウが生息することを保証していると言えるでしょう。



ヒメネズミ

アカネズミ

## 溶岩洞窟とコウモリ類

富士山の山麓部には独自性の強い生態系が多く見られます。青木ヶ原樹海などの原生林はその代表と言えるでしょう。青木ヶ原樹海は火山の噴火で流れ出た溶岩の上に形成された林で、林の景観そのものが通常の林とはかなり違っています。特に、樹海内には火山地形の溶岩洞窟や樹洞が多数存在し、フジホオヒゲコウモリ、ウサギコウモリ、コキクガシラコウモリなどの希少コウモリ類の世界的に見ても貴重な生息場所になっています。また、国指定天然記念物の西湖コウモリ穴には、コウモリの保護区域が設定されています。



ウサギコウモリ

コキクガシラコウモリ

# 富士山 の 動 物

# (チョウ類)

富士山には数多くの昆虫類が生息していますが、中でもチョウ類はよく調べられている昆虫類で、いろいろな生態が分っています。富士山ではこれまでに約120種のチョウが記録されていますが、これは山梨県全体の生息種数約150種の80%に当たり、富士山のチョウ相はかなり豊かであると言えます。

## 富士山には高山チョウが生息しない？

富士山のチョウ相の大きな特徴として、日本一の高山なのに高山チョウの仲間が生息していないことが挙げられます。高山チョウは卵、幼虫、蛹、成虫の全ステージを、標高1,500m以上の亜高山帯や高山帯で生活しているチョウの仲間で、本州にはタカネキマダラセセリ、ミヤマシロチョウ、クモマベニヒカゲなどの9種が生息していますが、この全部が富士山には全く見られません。このことは、高山チョウの多くが氷河期の遺存種（生き残り）と考えられており、最後の氷期が終った後、温暖化と共に生息場所を冷涼な高緯度地方や高標高地に移した後に、現在の富士山が噴火してできあがったからだと考えられています。



ヒメシロチョウ



ゴマシジミ



ヒメシジミ



アサマシジミ

## 富士山は草原性チョウ類の宝庫

一方、高山帯とは対照的に、山麓部に見られる広大な草原には、富士山のチョウ相を特徴づけ、代表するような温帯草原性のチョウ類が極めて豊富に生息しています。その代表種としては、ヒメシロチョウ、ゴマシジミ、ヒメシジミ、アサマシジミ、ヒヨウモンチョウ、ギンイチモンジセセリ、ホシチャバネセセリ、アカセセリ等が挙げられます。これらの種は、全国的に見ると草原環境の減少により個体数が激減し、環境省のレッドリスト（絶滅危惧種）に選定されている希少種です。富士山麓に見られる広大な草原地帯は、これらの草原性希少チョウ類のホットスポットになっており、関東甲信越近辺では最も種数の豊富な地域の一つになっています。

## 富士山に生息するミドリシジミ類

山麓部の有名な原始林青木ヶ原樹海に隣接する大室山には、針葉樹主体の樹海とは異なる広葉樹の森が見られ、その中に天然ブナの大木が多数見られます。このあたりでは、富士山で初めて発見され、チョウ類では唯一フジの名がついている美蝶フジミドリシジミが見られます。幼虫はこのブナの新芽や若葉を食べて成長します。また成虫はブナの大木の上部で活動するので、なかなか観察するのが大変のですが、早朝はよくブナの下草に止まっていたりするので観察のチャンスと言えます。富士山麓部のブナ、ミズナラ、カシワなどの落葉広葉樹の森は、フジミドリシジミを始め、ハヤシミドリシジミ、エゾミドリシジミ、メスアカミドリシジミなどミドリシジミ類の宝庫と言えます。



フジミドリシジミ



ホシチャバネセセリ



ヒヨウモンチョウ

## 富士山クイズ

### A.4: ②雪しきろ

「雪しきろ」は、富士山の雪が溶けて起る土石流の一種です。かつては富士山麓に非常に大きな災害を及ぼしたことありました。富士山麓の道路沿いの溝が深いのは雪しきろ対策なのです。「伏流水」は、地面に染み込み地下を流れている水のことです。富士山の伏流水は溶岩を通過するため多くのナジウムが含まれているという特性があり、健康に良いということで、近年、注目が高まっています。

富士山クイズ  
Q5:千円札裏の「富士山」。この湖は富士五湖のうちどれ?  
①本栖湖 ②西湖 ③山中湖  
(答えは14ページ)